

3-7. 一般社団法人檜原村観光協会（東京都西多摩郡檜原村）

(1) 地域の概要

【人口】

2,406人（平成26年9月1日）

【地勢】

檜原村は東京都の西に位置し、一部を神奈川県と山梨県に接しています。村の周囲を急峻な山嶺に囲まれています。総面積の93%が林野で平坦地は少なく、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれています。村の中央を標高900mから1,000mの尾根が東西に走っており両側に南北秋川が流れていて、この川沿いに集落が点在しています。

【面積】

105.42km²

【自然】

自然の宝庫、東京都の奥座敷といわれており、豊かな自然は多くの動植物を育み、奥秋川の清流と奥深い山々は、格好の繁殖地として多くの鳥獣や植物が東京の中で見ることができる数少ない貴重なところです。

【歴史】

村の歴史も古く、明治22年の立村以来百有余年、名称も区域もそのまま秋川源流の大自然の中で貴重な歴史を積み重ねてまいりました。縄文時代の遺跡をはじめ多くの出土品が発掘されており、伝統芸能は式三番叟、神代神楽、囃子、太神楽、獅子舞等が連綿と伝承され、毎年初秋には各地域で盛大に上演されます。

【観光】

観光面では、村の80%が秩父多摩甲斐国立公園となっており、豊かな自然の佇まいそのものが観光資源であります。村を訪れる観光客は、四季、さまざまな彩りに魅せられ年間37万人にも及んでおります。また神戸岩や払沢の滝、歴史・文化遺産を展示した郷土資料館や滝巡りなどの観光ルートや、山岳自然公園の都民の森が人気の的となっており、加えて、民宿の多い数馬地区に「数馬の湯」として温泉センターもあり、日帰り観光を含め多くの方々に親しまれています。

【地域資源の概要】

①払沢の滝

日本の滝百選に入る払沢の滝は檜原村の滝を代表する名瀑で、通年多くの観光客が訪れます。落差は4段で約60m。最下段（落差約26m）の落ち込みにある深い淵はとても神秘的で、古くから大蛇が住むと伝えられてきました。また払沢の滝は厳冬期に美しく結氷することでも知られています。

②神戸岩

神戸川上流にある高さ約 100m、幅約 140m の大岩壁がそそりたつ豪快な岸壁で都の天然記念物に指定されています。目の前に大きく立ちはだかる自然芸術は圧巻です。岩間のトンネルから裏側にも出られます。

③都民の森

檜原都民の森は、標高 1,000 メートルから 1,500 メートルの高地で自然を身近に感じ、楽しむ事ができる山岳公園です。ブナが残っており貴重な財産であるとともに学術的にも貴重な自然林で、高齢者や車いすを利用されている方でも気楽に利用できる施設です。

(2) アドバイザー派遣申請の背景

1) アドバイザー派遣申請の背景

檜原村は、大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれており、三頭山を頂点とする自然林や秋川源流域の滝や溪谷美、四季折々の花など豊かな自然環境を有している。過疎化が進む中で、このような豊かな自然を活かし、自然環境保全と地域活性化を図るエコツーリズムに着目し、NPO法人をはじめとする市民団体によって試行的な取組が行われるようになった。

また、秋川流域のあきる野市および日の出町を含む広域圏でジオツーリズムに取組む機運が高まっており、檜原村においても受入体制を検討する必要がある。

2) これまでの取組

- ・暮らしぶり体験ツアーに関わるガイド講習会（檜原村村観光協会）
- ・地域資源掘り起し調査とエコツーリズム講習会の開催（NPOフジの森）
- ・森林セラピー推進協議会での協議（檜原村）

(3) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 27 年 1 月 27 日 (火) ～29 日 (木)
場 所	【視察】 払沢の滝、神戸岩、都民の森・セラピーロード、数馬集落、兜造の宿泊施設、小林住宅、数馬分校記念館 【講習会】 地域交流センター
ア ド バ イ ザ ー	NPO 法人片品・山と森の学校 副理事 安類 智仁 氏
参 加 者	合計 13 名
スケジュール・方法	【1 日目】 ・檜原村観光協会にて講師紹介及びガイドダンス ・視察：払沢の滝、神戸岩、小林家住宅 ・講習会：尾瀬のガイドの取組について 【2 日目】 ・視察：都民の森セラピーロード、数馬集落、数馬分校記念館 ・講習会：ネイチャーガイドの基本スキルについて 【3 日目】 ・講習会：檜原村におけるガイド組織について

(4) アドバイスの内容

1) 尾瀬のガイドの取組について

①尾瀬ガイド協会の設立

ガイドが提案し、自治体の支援を得て設立

②尾瀬のガイド登録

ア. 尾瀬自然ガイド：地域限定

イ. 尾瀬登山ガイド：全域

③ガイドレシオの重要性

1：15 以下となるようにガイドを派遣。顧客満足度の観点からも重要。

④尾瀬自然学校

群馬県内の小中学校が対象の校外学習でガイドレシオは 1：8。

⑤ツアーバスの受入

ツアーバスで初めて尾瀬を訪れる人を受け入れ、ガイドで楽しんでもらい、リピートしてもらうことを目指す。事業戦略上、ツアーバスはガイド料が安くても外せない。

⑥広域連携の必要性

ピークが異なる地域と連携することで、ガイド不足を補っている。谷川岳と尾瀬は連携しやすい。また、スノーシーズンは、スキー場でガイド事業を行っている。ガイド事業を通年で行うには、広域で活動する場を確保する必要がある。



弘沢の滝視察



神戸岩視察



小林家住宅視察



小林家住宅外観



講演の様子



講演の様子

2) ネイチャーガイドの基本スキルについて

①ガイドに求められる基本スキル

ア. 専門性

見えるものを解説することに加えて、その背景にあるものを解き明かし、見えないものを伝えていくことで、参加した人に満足してもらえる

イ. エンターテインメント

今ある地域資源から、楽しさを創り出していく能力が必要になる。

ウ. オリジナリティ

特別性の演出。地域らしさ、地域ならではの、そのガイドらしさ、そのガイドならではの、を演出する。

エ. コミュニケーション

人と人との関係をスムーズにする。情報の伝え方、聞き方の技術が求められる。

②情報の伝え方

ア. 理解のゴールを示す

イ. 相手を見る

ウ. 情報を分ける

エ. 一区切りを小さくする

オ. 情報構造を開示する

カ. 欲張らない

キ. 曖昧さを無くす

ク. 根拠を示す

ケ. 引率する

コ. イメージさせる

③聞き方の技術

ア. 促しと繰り返し

イ. 要約

ウ. 質問

エ. 共感

④プログラム運営に必要な能力

ア. 価値観の考え方・ハート

イ. 安全管理

ウ. 解説

エ. 運営

オ. 経営



都民の森視察



都民の森セラピーロード視察



数馬集落視察



講演の様子



講演の様子

3) 檜原村におけるガイド組織について

①ガイドや組織が連携するには

- ・情報のアンテナを張る
- ・足で稼ぐ
- ・面白いことを発見する力を養う
- ・チャレンジする気持ちを持つ
- ・尾瀬保護財団では、毎週情報発信を行っている

②ツアー受入の考え方

- ・あまり安く受けない（参加費の目安 1,000 円/h）
- ・最少催行人数を設定しない

③今後の進め方

- ・先進地視察研修（上野村、片品村、みなかみ町など）
- ・関連組織の情報交換（観光協会、NPO フジの森、数馬観光デザインセンターなど）
- ・ガイドのネットワーク化（元都レンジャーの協力、ガイド・ウォークの会など）



講演の様子

(5) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

- ・視察先を初めて訪れた参加者も多く、アドバイザーに対する地元ガイドの解説を通じて、参加者に対しても地域資源の理解が深まった

②今まで課題としていたことがより明確になった

- ・ガイド人材の確保・育成が課題と認識していたが、アドバイザーの指摘により、ガイド料の設定が大きく影響していることが明確になった
- ・尾瀬の取組を通じて、ガイド組織の重要性を理解できた

③今までの課題に対して取組方が分かった

- ・エコツーリズム先進地の尾瀬でもガイド組織づくりに何年もかけており、地道に取り組むことが重要であると理解できたが、特にガイドと行政との連携や情報共有がポイントになることが分かった

2) 今後期待される効果

- ・今回参加したガイドおよび関係団体において、エコツーリズムに関する情報交換が進む
- ・エコツーリズム先進地への視察研修の機運が高まる（尾瀬、谷川岳等でのガイドの実態を安類アドバイザーから学ぶ）
- ・安全管理や解説だけでなく、経営を意識したガイド事業が展開されるようになる
- ・ガイドのリーダーによるガイド組織設立に向けた機運が高まる

3) 今後の取組

- ・ガイド同士の情報共有の場の設定
- ・町内関係組織が連携したツアーの実施
- ・ガイド研修の継続実施（講座・視察）
- ・ガイド組織の設立

(6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

- ・尾瀬ガイド協会での研修制度
- ・尾瀬保護財団及び群馬県の支援活動
- ・谷川岳エコツーリズム推進協議会と尾瀬との連携

2) その他感想

アドバイザーの活動拠点である群馬県片品村と檜原村との共通点が多く、尾瀬の取組を詳細に解説してもらうことで大変参考になった。

(7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

NPO 法人片品・山と森の学校 副理事 安類 智仁 氏

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

檜原村は島嶼を除いた東京都唯一の村であり、奥多摩町とともに都内最西部に位置している。村のシンボルである三頭山周辺にはツガの巨木が多く、かつては幕府直轄の御林として林業が盛んであった。また御岳山信仰の拠点でもあり、御岳山ケーブルカーが敷設されるまでは大岳山とともに参拝者で賑わったと考えられる。

現在の人口は約 2,200 人で、採石業、芋類を中心とした農業、観光業が主な産業であり、特に観光業では都内からのアクセスの良さを活かしたオートキャンプや釣り、三頭山登山や都民の森などでの自然体験活動が盛んである。

また村をぐるりと取り囲む山々の稜線では、日本で最も古くから行われている山岳耐久レースである「長谷川恒夫カップ」が毎年開催されるほか、ヒルクライムやマウンテンバイク目的の来村者が多い。

②課題

自然資源の豊かさや、都内からのアクセス面、現在の利用状況など、様々な面でエコツーリズム推進のポテンシャルを持っている地域であるが、その推進体制が築かれていない点が課題である。この根底には歴史的背景による地区間のわだかまりがあるため、行政も資金投入しづらい面があると思われる。地元側で受け皿となれる組織作りが必要である。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

村内を取り囲む山々は標高 1000～1500m 付近にあり、生物多様性のホットスポットであると思われる。今回の訪問は冬期であったが、グリーンシーズンに稜線や沢沿いを歩いてみたくなった。

また山岳耐久レースコースだけあって長大な稜線が続くが、あちこちに村内へと下山するエスケープルートが作られており、近年ブームとなっている登山のステップアップ的山域として活用できると考えられる。

3) アドバイス（講義等）の概要

受入側からガイドの組織化や、ガイドング技術についてのオーダーがあったため、尾瀬認定ガイド制度やその協会づくりの経緯についてアドバイスを行った。また同協会では尾瀬認定ガイド向けに行われている研修プログラムを用いてガイドング技術についても紹介した。

・尾瀬ガイド協会 (<http://www.ozeguide.net/>)

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

推進体制づくりの段階のため、現状では全体構想には着手していない。

②全体構想への意向について

同上。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

同上。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

地域の資源を活かした様々なチャレンジを繰り返している雰囲気や派遣期間中に感じる事ができた。それと同時に各団体が個別に努力されているため、つなぎ合わせる存在が必要である事も派遣中にお伝えしました。

様々な団体が集まって地元と行政をつなぐ役となり、そこで地区間の垣根を越えられるような共通目標が設定できれば大きく進展できていると感じています。